

## みんなの心に残る食農活動を！

岐阜県 JAひだ吉城地区フレッシュミズの会

古田光恵

「あっ！JAのおばちゃんだ！」「こないだは、ほうれん草カルピス飲んだよ。」「今日は何作るの？」保育園に行くと園児達が声をかけてくれます。保育園に行き、子ども達と一緒に食農活動をしているときに、私の一番輝いている時間です。

私は飛騨市古川町に住み、夫と両親、中2の長男、小学校2年の次男と私の6人で暮らしています。家は兼業農家ですが、米を一町歩、なんと全部ハサ干しで作っています。

私は農業とは無縁の環境で育ったため、嫁いでくるまでは田んぼもじっくり見たことがありませんでした。しかし、嫁いだとたん田んぼ仕事の手伝い！田植えの準備から秋の収穫までは毎週かりだされ、幼い子どもを連れての農作業、イヤでイヤでたまりませんでした。育児、家事、農作業との戦い、「いい嫁でいなきゃ」との思いが強く、辛かったこともありましたが。でも、息子達も大きくなり、田んぼの手伝いも進んでしてくれるようになり、「かあちゃん、田んぼは大変やけど、うまい米採るには手間がかかるんやな」と私に言ったときは、「子どもなりに、ちゃんと親の姿を見とる」と、ちょっぴりうれしかったです。

そんな中で私は、農業に誇りを感じるようになり、子ども達に農や食について伝えていきたいなと思うようになったのでしょうか。私がJAひだの食農リーダーになり、保育園での食農活動をするようになったのも、そんなことがベースにあったのだと思います。

活動の最初のきっかけは、平成16年2月、私が所属しているJAひだフレッシュミズの会が横浜港を視察したときのことです。テレビ等で輸入農産物への恐ろしさは見たり、聞いたりしていましたが、野菜や山菜が青い容器に入れられ野積みされているところや、倉庫の中にいつ入荷したかわからない野菜の段ボールの山を見たときはびっくり！係りの人に、買い手がつくまで放置されていること、買い手がつけば、色やにおいをつけ加工して出荷することを聞き、それが私達の口の中に入っていたかと思うと、驚きよりもショックでいっぱいでした。やはり自分の家で作っている野菜が一番！と再確認し帰ってきたことを覚えています。

それからは、スーパーに行ったら以前よりしっかり生産地を確認し、なるべく家で作ったものを食べるように心がけました。また、そういうことに無頓着だった私は、このことを子育て中のお母さん達にも伝えていかなければならない、といった使命感のようなものを漠然とながら感じていました。

そんな折タイミングよく、JA食農リーダー研修会に参加しないかとの誘いがあり、何をするのか、とまどいもありましたが、地域の子も達、子育て中のお母さん達に私が横浜港で見た事を話すチャンスがあるかもしれない、と参加することにしました。

2回の研修を終え、3回目は地域の学校や保育園で実習することが課題となり、自分たちで実習先も決めなくてはなりませんでした。どこに実習に行くか迷った結果、先生方の理解もあり、次男の通っている保育園で実習することにしました。

名前は、「キッズぱくぱく教室」。内容は、農業の話と地元農産物を使った調理実習です。1回目は、米の話とほうれん草を使ったカルピスの試飲、野菜の旬を知るための手作り野菜カルタ、2回目は彼岸にちなんで、作ることの楽しさとおいしさを伝えるおはぎ作り、3回目は、節分にちなんだ太巻き作り。

調理実習は特に好評で、子ども達は「やりたい！やりたい！」「初めて作る！」「おいしい！」と喜び、実習は無事終了することができました。私も初めてにしてはうまくできたと大満足でした。

次の年、保育園の先生から「去年やってくれた『キッズぱくぱく教室』、今年もやってくれないかしら」との依頼があり、「1年だけで終わっては」「続けることに意義がある」と思い引き受けることにしました。そんな情報がどこから伝わったのか、2年目からは他の保育園からも声がかかるようになり、小学校からも豆腐作り教室を依頼され、ますます忙しくなっていき、とても私だけでは対応できなくなりました。

そのときに頼りになったのが同じフレッシュミズの仲間です。フレッシュミズには食農リーダー研修会に参加した人もおり、一緒に活動してもらうようになりました。

小学校に行くようになって「初めて包丁持った！」「家ではさせてもらえない！」と言う子ども達が多く、手伝いをしている子としてない子の甲斐性の差も出てきました。子ども達への食農教育も必要ですが、若いお母さん達を対象にした食農教室も大切なのです。それからは保育園の保護者会を対象にした食の安全性の講演会、乳幼児学級での輸入農産物の恐ろしさの話、手作りの良さなどを若いお母さんに話す機会も増え、活動の幅が広がっていきました。

しかし、活動が多くなるにつれ一緒に活動していく仲間が減っていくという問題が発生してきました。活動自体が活発になっていくのと裏腹に、子育て中で時間がとれない人、反対に子育てが一段落して勤めに出る人が増えてきたからです。

ところで、私の所属しているフレッシュミズの会の仲間は、現在会員は20名。専業、兼業農家の若い奥さんの集まりで、会員が楽しんで参加できる活動を自分達で企画し実行しています。保育園、学校への出前講座やそのための学習会の実施といった食農活動が中心ですが、ほかに地元産トマトを使ったケチ

キャンプ作りなどの調理実習、研修視察旅行などを行い、その際に子育てや仕事、家庭の悩みも似ていて、お互い認め合い励まし合いながらストレスを発散し、明日へのステップにもつなげています。

私は昨年この会の会長を引き受けました。その機会に食農活動の大切さ、子ども達と触れ合う楽しさを皆に理解してもらい、活動に参加してもらえよう会の行事の度に話をし、大切さを伝えてきました。でも自分自身も「まだまだ勉強しないといけない」と思い、昨年2月に家の光協会主催の「いのちと食と農を結ぶ」養成講座に参加しました。

この研修で特に勉強になったのは、坂本廣子先生の「子供料理教室のすすめ方」です。先生は料理教室を開く上での注意、心構え、やり方を教えてくださったのですが、その中で「失敗しても失敗で終わらせず、成功に導くことが達成感と自信につながる」という言葉が印象的でした。

この講座の2日間で、子ども達には言葉や知識の押し付けではなく、子ども自身が取り組み、考え、気づかせて発見させる工夫を私達がしてあげ、体験を通し食の大切さを伝えていくということと、自分のしてきた活動も見直すことができ、食育＝農業体験というつながり意識が必要ということを改めて感じ、「私ももっと食農活動頑張ろう！子ども達に感動を与えよう！」と意欲が沸いた研修でした。

5年間の私の食農活動は、子ども達やそのお母さんたちにほんの少しの食や農についてのきっかけを残したに過ぎないかもしれません。でもそれが何かの機会に役立ってくれればそれでいい、それ以上に私自身の気づき、学びがあったことが大きいと思います。それに仲間が存在です。

今年度は3人が新たに食農リーダー研修会に参加してくれることになりました。食と農について学ぶという姿勢が大切なわけで、層が厚くなれば実際の活動に出かけることのできる仲間は確保できると今思っています。

研修で多くのことを学ばせていただき、新しい活動の仲間も増え、今年から私のチャレンジしていく食農活動は、現状維持で満足するのではなく、一歩一歩前に踏み出し進んでいきます。

目標は次の3つ。

一．保育園3園で行なっている食農活動、毎年1園ずつ増やし飛騨市全園で活動すること。

二．地域の子供達全員に農業の大切さ、旬の野菜の美味しさを教え、自然の恵みに感謝する心を育てること。

三．以上の目標に向けて、フレッシュミズを中心に仲間を作って食農リーダーの層を厚くすること。

大きな夢ではありますが、実現できるよう頑張り、私も子ども達と共にもっともっと輝いていきます。